

「注文をまちがえる料理店」は奇をてらった店名ではない。働くのは認知症を抱える人たちである。間違えることもあるけれど、みんな一生懸命。そんな料理店だ▼ことし6月に2日間、9月には3日間、ともに東京都内のレストランを借りて開店すると、大きな反響を呼んだ。計20カ国のメディアから取材依頼が殺到した▼ネットで試みを知り注目していたら、同名の本になった。著者は料理店を発案したテレビ局ディレクターの小国士朗さん。一読して改めてほっこり、心が温まった▼接客を担当した認知症の人たちの様子が印象深い。美容師や秘書、飲食店員といった経歴を持ち、また働けるのがともかく

越山若水

2017.12.18

うれしそうだ。立ちずくめの仕事でも笑顔が絶えない▼来店客とはこんなやりとりが…。テーブルまで行ったものの「何をしに来たんだっけ」。するとお客さんから「注文を取りにじゃないですか？」と助け舟。「ああ、そうそう」▼認知症の高齢者は増え続け、日本では2025年に約700万人に達するといわれる。深刻には違いない。が、社会の受け止め次第で明るくもなると先の試みは教える▼接するのほんの少し時間を多くかけ、理解する優しさがあれば認知症を抱える人も普通に生活できる。かっこいい「クル・ジャパン」から心温まる「ウオーム・ジャパン」へ。小国さんの願いを応援したい。